

風土記の丘の花だより²⁸²

今、そしてこれから見られる植物(2025年7月19日)

クマゼミがやっと本格的に鳴き出しました。聞こえてくると暑苦しいですが、やっぱり、真夏には、あのけたたましい鳴き声がないと寂しいものです。さて、しばし暑さを忘れさせてくれる花でも咲いているといいのですが、この時期はそんな花は咲いていないものですね。



と言いつつ、これは涼しげな花と言ってもいいでしょうか。みなさんご存じのツユクサです。こんなに真っ青な花は園芸品種でも余り見たことがないくらい鮮やかな青です。青の花びらばかりが目立ちますが、下には小さな白い花びらも控えめに付いています。万葉の昔は「つきくさ」といって、染め物に用いました。でもすぐに色あせるので、すぐに冷めてしまう恋心にたとえて歌に詠まれました。「つきくさに 衣は 摺らむ 朝露に 濡れての後は うつろひぬとも」



ヤブミョウガの白い花が咲いています。6月の半ば過ぎから咲いているのでピークは過ぎている感じです。名前のように少し薄暗い所に生えて、葉がミョウガの葉に似ているのでこんな名前が付いています。でもミョウガの仲間ではなく、上のツユクサと同じツユクサ科の植物です。花が終わると丸い実ができて、やがてきれいな青に色づきます。園路沿いには所々で群落を見ることができますが、写真は万葉植物園を通り過ぎた園路の左斜面で撮りました。ここが一番観察しやすいと思います。



オトギリソウの黄色い花が咲いています。例年は旧谷村家の周辺で見られるのですが、今年は草刈りの時期と重なって、見ることはできません。これは旧谷山家の南の溝で見つけました。毎年咲いているのですが、気づきませんでした。何のへんてつもない葉のように見えますが、よく見ると小さなホクロのような黒い点々があります。肉眼で見えるのでしょうか？ 普段から虫眼鏡(ルーペ)持ち歩いている人も少ないでしょうが、それで見てみると「へえ～」と感動する・・・かもしれませんよ。



ヒオウギが旧小早川家の庭で咲き始めました。上品なオレンジ色の花です。去年も同じ庭で7月17日に開花しています。風土記の丘では、ここが一番早く咲くようです。万葉集では「ぬばたま」という名前で詠まれています。それはこの花ではなく、花の後にできる実のことです。真っ黒なので、夜、闇、髪などの枕詞(まくらことば)として使われ、80首ほどもあるのに、花の美しさを詠ったものはありません。せっかくなら、花を詠んで欲しかったなあ。

松下